

日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール 標準的接種期間、日本小児科学会の考え方、注意事項



定期接種



任意接種

ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
インフルエンザ菌 b 型（ヒブ）	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 3-8 週あける ③-④の間は 7-13 か月あける	(注 1) ④は 12 か月から接種することで適切な免疫が早期に得られる。③-④は 7 か月以上あけ、1 歳をこえたら接種	7 か月-11 か月で初回接種：①、②の後は 7 か月以上あけて③ 1 歳-4 歳で初回接種：①のみ
肺炎球菌（PCV13）	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 27 日以上あける ③-④の間は 60 日以上あけて、1 歳から 1 歳 3 か月で接種	(注 2) 定期接種で定められた回数の PCV7 接種を終了した 6 歳未満の児は、最後の接種から 8 週間以上あけて PCV13 の追加接種を 1 回行う（ただし任意接種）	7 か月-11 か月で初回接種：①、②の接種後 60 日以上あけて 1 歳以降に追加③ 1 歳-23 か月で初回接種：①、②を 60 日以上あける 2 歳-4 歳で初回接種：①のみ (注 2) PCV7 の接種が完了していないものは残りの接種を PCV13 で実施する
B 型肝炎（HBV）	不活化	①-②の間は 4 週 ①-③の間は 20-24 週	(注 3) 旧 B 型肝炎母子感染防止事業による接種スケジュール（生後 2、3、5 か月）に準ずる。接種時期に関しては、今後の検討が必要 (注 4) 乳児期に接種していない児の水平感染予防のための接種	(注 3) B 型肝炎母子感染予防のための接種スケジュールは生直後、1、6 か月（現在、添付文書改定中）
ロタウイルス	生	生後 6 週から接種可能、①は 8 週-15 週未満を推奨する 1 価ワクチン（ロタリックス®） ①-②は、4 週間以上の間隔をあけて計 2 回 5 価ワクチン（ロタテック®） ①-②-③は、4 週間以上の間隔をあけて計 3 回		(注 5) 計 2 回、②は、生後 24 週未満までに完了すること (注 6) 計 3 回、③は、生後 32 週未満までに完了すること
四種混合（DPT-IPV）	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 20-56 日までの間隔 (注 7) ③-④の間は 6 か月以上あけ、標準的には③終了後 12-18 か月の間に接種		DPT、IPV、OPV を 1 回も受けていない者を対象として 4 回接種 (注 8) 三種混合（DPT）とポリオ（IPV）を別々に接種する場合
三種混合（DPT）	不活化			(注 8) 三種混合（DPT）とポリオ（IPV）を別々に接種する場合
ポリオ（IPV）	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 20 日以上の間隔 (注 7) ③-④の間は 6 か月以上あけ、標準的には③終了後 12-18 か月の間に接種	可能な場合は三種混合ワクチンとの同時接種を行う	(注 8) 三種混合（DPT）とポリオ（IPV）を別々に接種する場合 2012 年 8 月 31 日以前にポリオ生ワクチン、または、ポリオ不活化ワクチンを接種し、接種が完了していない児への接種スケジュールは、 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/leaflet_120601.pdf を参照
BCG	生	12 か月未満に接種、標準的には 5-8 か月未満に接種	結核の発生頻度の高い地域では、早期の接種が必要	
麻疹、風疹（MR）	生	①：1 歳以上 2 歳未満 ②：5 歳以上 7 歳未満、(注 9) 小学校入学前の 1 年間		
水痘	生	①：1 歳以上	(注 10) 予防効果を確実にするために、2 回接種が必要 ①は 1 歳を過ぎたら早期に接種、②は 3 か月以上あけて、2 歳未満に接種することが望ましい	
おたふくかぜ	生	①：1 歳以上	(注 10) 予防効果を確実にするために、2 回接種が必要 ①は 1 歳を過ぎたら早期に接種、②は MR の第 2 期と同時期（5 歳以上 7 歳未満で小学校入学前の 1 年間）での接種を推奨	
日本脳炎（注 11）	不活化	①、②：3 歳、①-②の間は 6-28 日までの間隔 ③：4 歳 ④：9 歳（小学校 3-4 年生相当）		通常の定期接種では、生後 6 か月から生後 90 か月（7.5 歳）未満（第 1 期）、9 歳以上 13 歳未満（第 2 期）が対象 2005 年 5 月からの積極的勧奨の差し控えを受けて、特定対象者（平成 7 年 4 月 2 日から平成 19 年 4 月 1 日生まれの人）は、20 歳未満まで定期接種の対象 具体的な接種については厚生労働省のホームページ（日本脳炎） http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou20/annai.html を参照
インフルエンザ	不活化	①-②の間は 4 週（2-4 週）		13 歳未満：2 回、13 歳以上：1 回または 2 回 1 回接種量：6 か月-3 歳未満：0.25mL；3 歳以上：0.5mL
二種混合（DT）	不活化	①11 歳から 12 歳に達するまで	百日咳患者の増加から、DPT への移行が必要	予防接種法では、11 歳以上 13 歳未満
ヒトパピローマウイルス（HPV）	不活化	12 歳-16 歳（注 13） 小学校 6 年生から高校 1 年生相当 2 価ワクチン（サーバリックス®） ①-②の間は 1 か月、①-③の間は 6 か月あける 4 価ワクチン（ガーダシル®） ①-②の間は 2 か月、①-③の間は 6 か月あける		接種方法は、筋肉内注射（上腕三角筋部） (注 12) 2 価ワクチンは 10 歳以上、4 価ワクチンは、9 歳以上から接種可能 (注 13) 定期接種としての接種間隔が 2 つのワクチンで異なることに注意 2 価ワクチン ①-②の間は、1-2.5 ヶ月 ①-③の間は、5-12 か月 4 価ワクチン ①-②の間は、1 ヶ月以上、①-③の間は、6 か月

